

小児緩和ケアにおける地域連携と アドバンス・ケア・プランニングの導入

長野県立こども病院
血液腫瘍科
坂下一夫



目 的

成人領域では終末期をどのように生きるかを目的にアドバンス・ケア・プランニング（ACP）の導入が試みられ、一定の成果も得られてきている。小児難治性悪性腫瘍症例において ACP の導入の有効性についての評価はされていない。当院では在宅療養を希望する家族に対して地域連携を行いながら終末期医療の提供を行ってきている。また患者およびその家族がどのような生き方、目標を明らかにし、それに対して医療サイドはどのようなサポートをすべきかを考える ACP を導入 予定である。

そこで APC を導入することにより、患者とその家族、医療者の意識がどのように変化するかを前方視的に研究する事で、小児領域における ACP 導入の有効性を明らかにする。

ACPとは

今後の治療・療養について患者・家族と医療従事者が予め話し合う自発的なプロセス

- 患者が望めば、家族や友人とともに行なわれる
- 患者の同意のもと、話し合いの結果が記述され、定期的に見直され、ケアに関わる人の中で共有されることが望ましい。
- ACPの話し合いには、以下の内容を含む
 - ・患者本人の気がかりや意向
 - ・患者の価値観や目標
 - ・病状や予後の理解
 - ・治療や療養に関する意向、その提供体制

活動内容

- 医療者意識調査（院内のアンケート調査）
- 講演会
- 血液腫瘍科の症例での試み。
- 患者家族意識調査（遺族も含む）

緩和ケアに関するアンケート

予後不良な患者とその家族との関わりに関して、提供する医療の中で感じていることは何ですか？

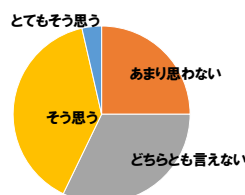
- ① 他の業務に時間がとられて、苦痛を緩和する医療・ケアが十分に提供できない。
- ② 多職種で一貫した目標を設定することができている。
- ③ 多職種で治療やケアに関して十分なコミュニケーションを取ることができている。
- ④ 多職種で患者・家族の思いを共有できている。
- ⑤ 予後不良な患者・家族に関わることは、自分自身の精神的負担が大きい。
- ⑥ 予後不良な患者・家族に関わる上で自分自身の知識、技術が不足していると感じる。

予後不良な患者・家族と関わる場合についてお聞きします。

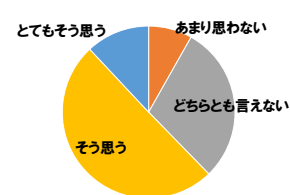
- ① 予後不良な患者・家族の希望や思い（療養場所、過ごし方）を確認したことがありますか？
- ② ①の事柄を確認することは必要だと感じる。
- ③ ①を確認することは難しいと感じる。
- ④ 患者、家族の思いについて、得た情報をどこに残すか悩むことがある。
- ⑤ 他のスタッフが患者、家族の思いについてどこまで情報をとっているのかわかりづいと感じる。
- ⑥ 電子カルテで情報をとる際、必要な情報がどこに書いてあるかわからず困ることがある。
- ⑦ 患者・家族側と医療者側の認識や捉え方の違い、差があると感じたことがある。
- ⑧ 在宅移行は難しいと感じたことがある。

6-1 他の業務に時間がとられて、苦痛を緩和する医療・ケアが十分に提供できない。

医師

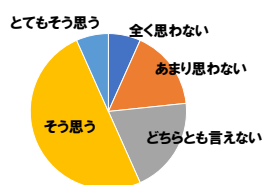


看護師

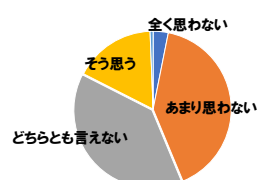


6-2 多職種で一貫した目標を設定することができる。

医師

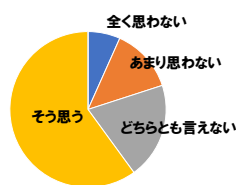


看護師

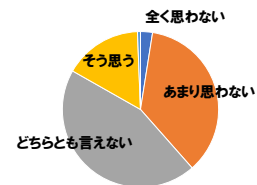


6-3 多職種で治療やケアに関して十分なコミュニケーションを取ることができる。

医師

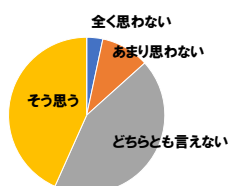


看護師

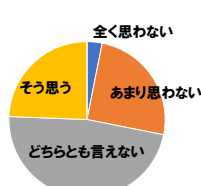


6-4 多職種で患者・家族の思いを共有できている。

医師

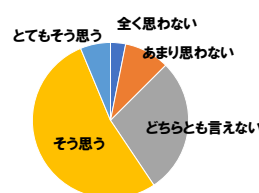


看護師

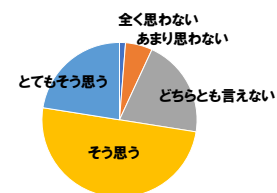


6-5 予後不良な患者・家族に関わることは、自分自身の精神的負担が大きい。

医師

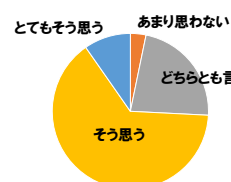


看護師

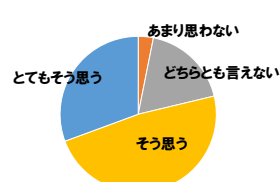


6-6 予後不良な患者・家族に関わる上で自分自身の知識、技術が不足していると感じる

医師



看護師



7-1 予後不良な患者・家族の希望や思い(療養場所、過ごし方)を確認したことがありますか？

医師

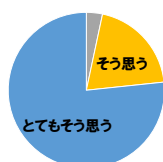


看護師

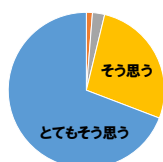


7-2 患者・家族の希望や思いを確認することは必要だと感じる。

医師

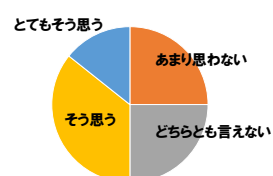


看護師

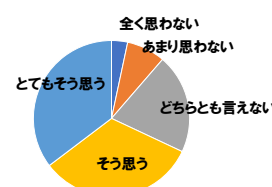


7-3 患者・家族の希望や想いを確認することは難しいと感じる。

医師

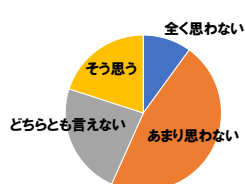


看護師

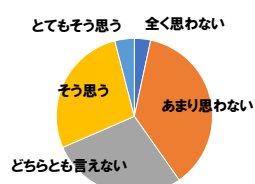


7-4 患者、家族の思いについて、得た情報をどこに残すか悩むことがある。

医師

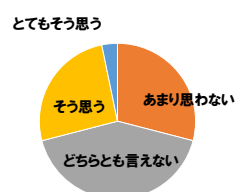


看護師

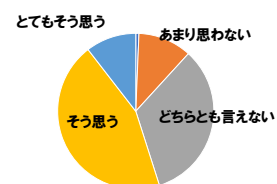


7-5 他のスタッフが患者、家族の思いについてどこまで情報をとっているのかわかりづらいと感じる。

医師

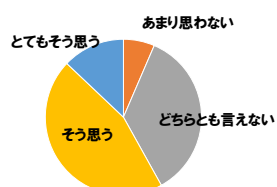


看護師

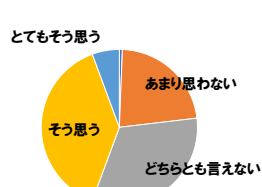


7-6 電子カルテで情報をとる際、必要な情報がどこに書いてあるかわからず困ることがある。

医師

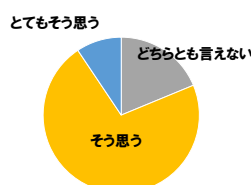


看護師

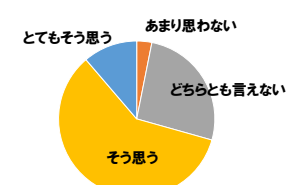


7-7 患者・家族側と医療者側の認識や捉え方の違い、差があると感じたことがある。

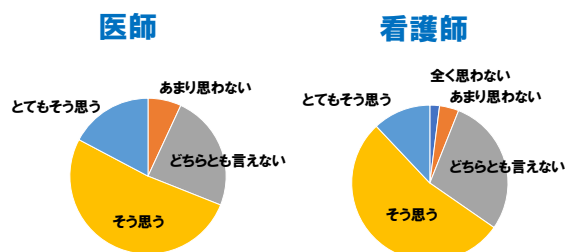
医師



看護師



7-8 在宅移行は難しいと感じたことがある。



活動内容

- 医療者意識調査（院内のアンケート調査）
- 講演会
- 血液腫瘍科の症例での試み。
- 患者家族意識調査（遺族も含む）

小児領域におけるアドバンス・ケア・プランニングについて

これからの過ごし方の話し合い

～小児緩和ケアの対象となる子どもの
“Life(生活・人生・いのち)”を支えるために～

高知大学教育研究部 医療学系看護学部門
臨床看護学講座 小児看護学
松岡 麻里

活動内容

- 医療者意識調査（院内のアンケート調査）
- 講演会
- 血液腫瘍科の症例での試み。
- 患者家族意識調査（遺族も含む）

症 例

症例1： 11歳 女児・脳腫瘍

症例2： 9歳 男児・脳腫瘍

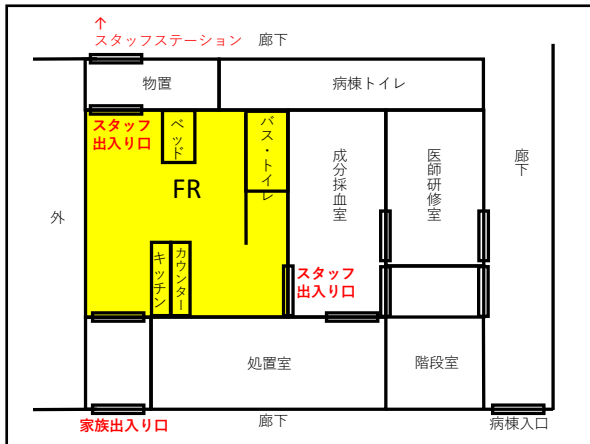
症例3： 17歳 女性・軟部腫瘍

院内ファミリールーム (FR) 開設

・平成28年度こども病院寄付プログラムにて、患者が
家族と過ごすことのできるキッチン、バス、トイレ付きの
ファミリールームを建設することになった。

・場所は血液腫瘍科の入る病棟の一角

・平成29年3月に完成した。



活動内容

- 医療者意識調査（院内のアンケート調査）
- 講演会
- 血液腫瘍科の症例での試み。
- 患者家族意識調査（遺族も含む）

患者家族意識調査（遺族も含む）

（第1回目）
 対象:2012～2016 年に血液腫瘍科で治療を行なった患者家族
 方法:郵送によるアンケート調査
 評価内容:療養中の医療ケアプロセスに対する満足度

（第2回目）
 対象:2017～2020 年に血液腫瘍科で治療を行なった患者家族
 方法:郵送によるアンケート調査
 評価内容:療養中の医療ケアプロセスに対する満足度

II. 患者さんにくらまれた施設で、これまでの1か月以内に受けられた医療について、あなたの印象をお答えください。質問に対し最も当てはまる番号に○をつけてください。もしも該当することがない（患者様の印象がなかった）場合は、「該当しない」をお選びください。

	1	2	3	4	5	6	7
【医師のからだの容態に対する対応について】							
医師は、患者様からその容態を知らせてくれるように努めています。							
【看護婦のからだの容態に対する対応について】							
看護婦は、患者様からその容態を知らせてくれるように努めています。							
【患者様の不安や心配を和らげるために、医師、看護婦、スタッフは努めています。】							
【医師の患者様への病状や治療方針の説明は十分です。】							
【医師からご家族（遺族）へ病状や治療方針の説明は十分です。】							
【看護について】							
看護（生活の援助）は生活しやすく、快適だった。							
【ご家族への配慮について】							
ご家族が療養を維持できるように配慮があった。							
【食事について】							
食生活の改善は満足だった。							
【入浴または浴室でのケアについて】							
お風呂と更衣室に満足（利用）できた。							
【通院や継続性について】							
医師や看護婦など医療者とうまの連携はよかった。							

平成30年2月 倫理委員会承認

現在実施中